


















《第109回景況アンケート調査(平成29年9月調査)》

とよしん景況天気図

業種	調査時期	現 状	見通し
		29/7~29/9	29/10~29/12
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《記号の意味》

D I 数値	30 以上	良 い	
D I 数値	10 以上 ~ 30 未満	やや良い	
D I 数値	▲10 未満 ~ 10 未満	普 通	
D I 数値	▲10 以下 ~ ▲30 未満	やや悪い	
D I 数値	▲30 以下	悪 い	

《D I の意味》

D I とは、ディフュージョン・インデックス (拡散指数) の略で、増加 (良い) 企業の割合から減少 (悪い) 企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

要 旨

『当地区の景況は、引続き緩やかに改善している。』

当期（7～9月）のDIは、業況+7.6（前期比+2.3ポイント）、売上+11.8（同+5.2ポイント）、収益+9.4（同+3.6ポイント）と全てのDIが前期比改善している。

また、来期（10～12月）についても、業況+9.3（当期比+1.7ポイント）、売上+14.3（同+2.5ポイント）、収益+10.1（同+0.7ポイント）と全てのDIで当期比改善が見込まれている。

業況DI

最近3ヵ月の業況DIは、総合+7.6と前期比+2.3ポイント改善した。業種別では、製造業+19.6（前期比+10.3ポイント）、卸売業±0.0（同▲4.0ポイント）、小売業+8.5（同▲5.8ポイント）、サービス業▲0.9（同+4.2ポイント）、建設業+2.3（同▲1.3ポイント）と前期比では卸売業、小売業、建設業で低下している。

先行き（10～12月）について、総合では+9.3と当期比+1.7ポイントの改善が見込まれている。業種別では製造業+16.8（当期比▲2.8ポイント）、卸売業+4.2（同+4.2ポイント）、小売業+1.7（同▲6.8ポイント）、サービス業+1.8（同+2.7ポイント）、建設業+5.7（同+3.4ポイント）と製造業、小売業で当期比低下が見込まれている。

売上DI

最近3ヵ月の売上DIは、総合+11.8と前期比+5.2ポイント改善した。業種別では、製造業+22.4（前期比+11.0ポイント）、卸売業+4.2（同+4.2ポイント）、小売業+13.6（同▲6.0ポイント）、サービス業+8.9（同+13.2ポイント）、建設業+8.0（同▲0.3ポイント）と前期比では小売業、建設業で低下している。

先行き（10～12月）について、総合では+14.3と当期比+2.5ポイントの改善が見込まれている。業種別では、製造業+20.3（当期比▲2.1ポイント）、卸売業+8.3（同+4.1ポイント）、小売業+6.8（同▲6.8ポイント）、サービス業+15.2（同+6.3ポイント）、建設業+13.6（同+5.6ポイント）と製造業、小売業で当期比低下が見込まれている。

収益DI

最近3ヵ月の収益DIは、総合+9.4と前期比+3.6ポイント改善した。業種別では、製造業+17.5（前期比+8.9ポイント）、卸売業+4.2（同+2.2ポイント）、小売業+15.3（同▲4.3ポイント）、サービス業+8.0（同+10.6ポイント）、建設業+4.5（同▲1.5ポイント）と、前期比では小売業、建設業で低下している。

先行き（10～12月）について、総合では+10.1と当期比+0.7ポイントの改善が見込まれている。業種別では、製造業+16.1（当期比▲1.4ポイント）、卸売業+12.5（同+8.3ポイント）、小売業±0.0（同▲15.3ポイント）、サービス業+11.6（同+3.6ポイント）、建設業+5.7（同+1.2ポイント）と製造業、小売業で当期比低下が見込まれている。

とよしん景況調査

《調査要領》

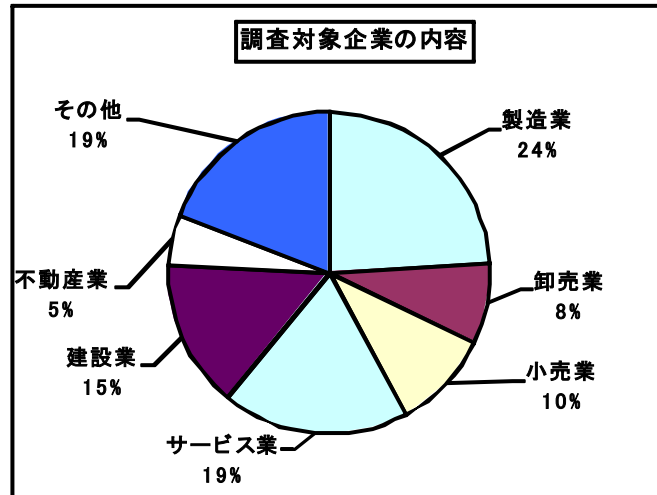
調査対象時期 平成29年 7月～9月 実績
平成29年 10月～12月 見通し

調査方法 聞き取りアンケート調査

調査対象企業 当金庫取引先 594社

分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	時期	DI数値					
		平成28年 7～9月	10～12月	平成29年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
総合		5.2	7.8	6.5	5.3	7.6 ↑	9.3 ↑
製造業		11.6	11.0	11.3	9.3	19.6 ↑	16.8 ↓
卸売業		7.0	7.5	9.6	4.0	0.0 ↓	4.2 ↑
小売業		5.3	9.4	5.5	14.3	8.5 ↓	1.7 ↓
サービス業		3.0	8.2	2.8	▲5.1	▲0.9 ↑	1.8 ↑
建設業		▲2.2	6.4	0.0	3.6	2.3 ↓	5.7 ↑

<売上>

(数値はDI数値)

業種	時期	DI数値					
		平成28年 7～9月	10～12月	平成29年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
総合		6.6	12.1	9.5	6.6	11.8 ↑	14.3 ↑
製造業		12.2	16.6	18.4	11.4	22.4 ↑	20.3 ↓
卸売業		5.3	9.4	7.7	0.0	4.2 ↑	8.3 ↑
小売業		10.5	9.4	10.9	19.6	13.6 ↓	6.8 ↓
サービス業		12.9	16.4	9.3	▲4.3	8.9 ↑	15.2 ↑
建設業		1.1	13.8	1.1	8.3	8.0 ↓	13.6 ↑

<収益>

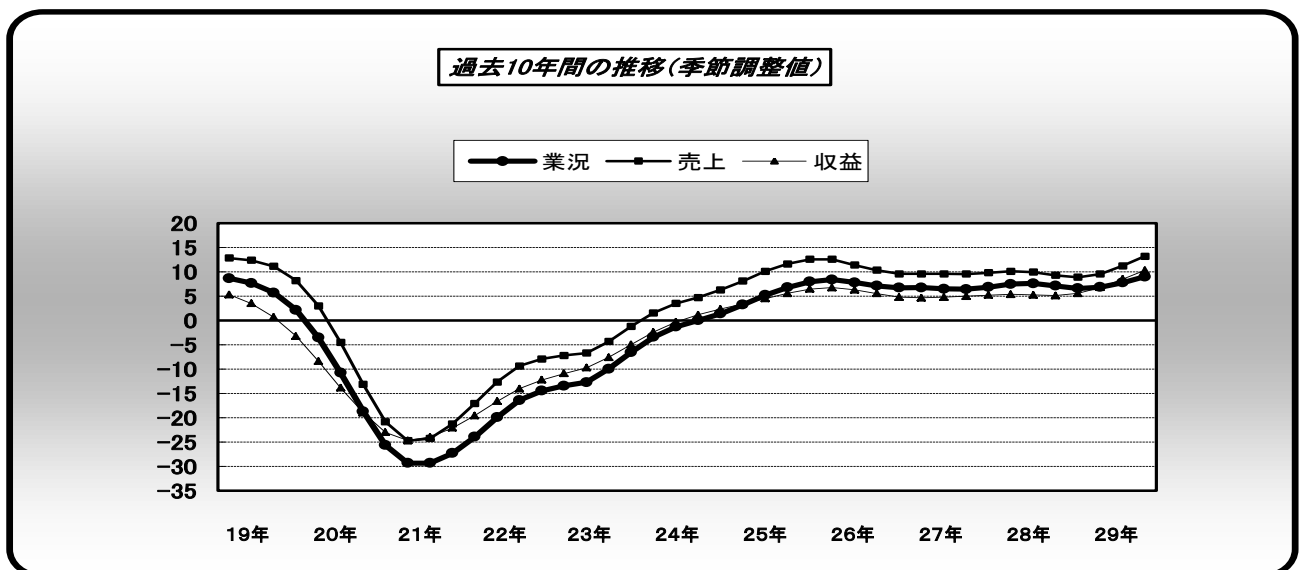
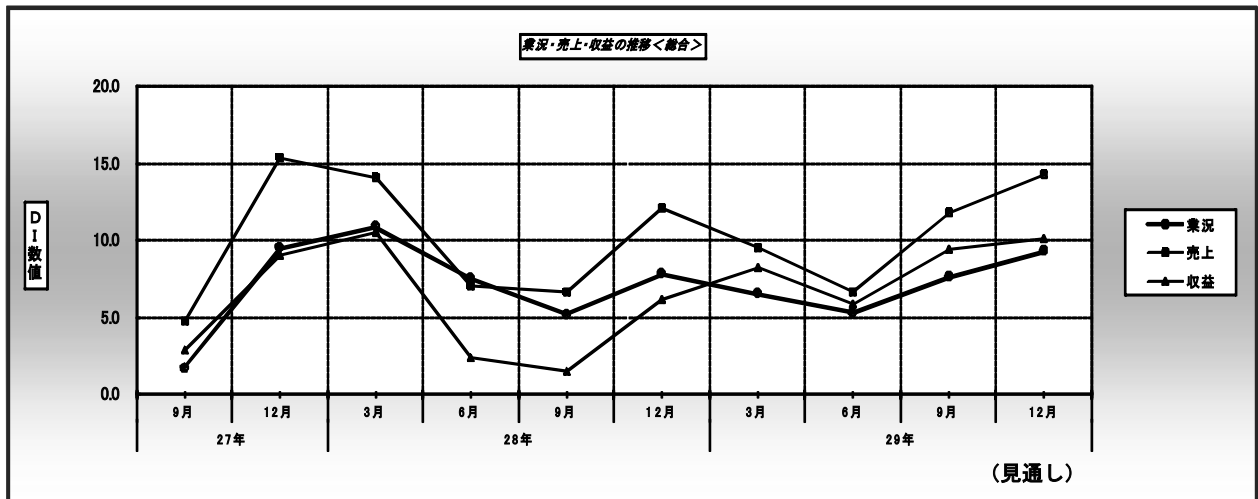
(数値はDI数値)

業種	時期	DI数値					
		平成28年 7～9月	10～12月	平成29年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
総合		1.5	6.1	8.2	5.8	9.4 ↑	10.1 ↑
製造業		3.4	6.9	15.6	8.6	17.5 ↑	16.1 ↓
卸売業		1.8	1.9	7.7	2.0	4.2 ↑	12.5 ↑
小売業		▲1.8	1.9	3.6	19.6	15.3 ↓	0.0 ↓
サービス業		7.9	8.2	10.2	▲2.6	8.0 ↑	11.6 ↑
建設業		▲1.1	6.4	▲2.2	6.0	4.5 ↓	5.7 ↑

総 合

当期のD Iは、業況+7.6（前期比+2.3ポイント）、売上+11.8（同+5.2ポイント）、収益+9.4（同+3.6ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。来期も全てのD Iで当期比改善が見込まれている。

業種別にみると、製造業全体としては、企業の設備投資意欲が引続き高く、受注が増加している先もみられる。しかし、依然として人手不足や外注費の高騰を懸念している先もみられる。卸売業全体としては、配送業者からの運賃値上げによる業況への影響および人材確保が課題となっている先もみられる。小売業のうち、自動車販売については、全体的に販売台数は増加傾向にある。サービス業のうち、ホテル・旅館業については、引続き中国人等の団体旅行客の予約も入っているが、人材不足は当面の課題となっている。建設業全体としては、依然として人手不足が大きな課題となっており、各事業者は人材確保のため賃金改定や労働環境の改善に努めている。



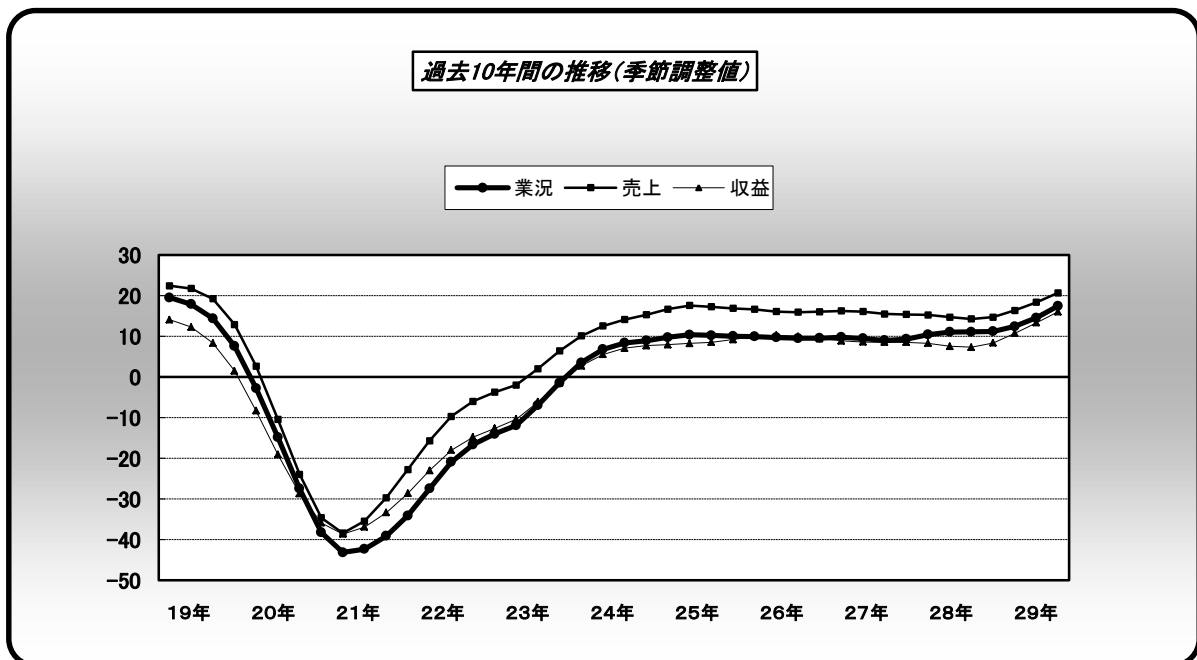
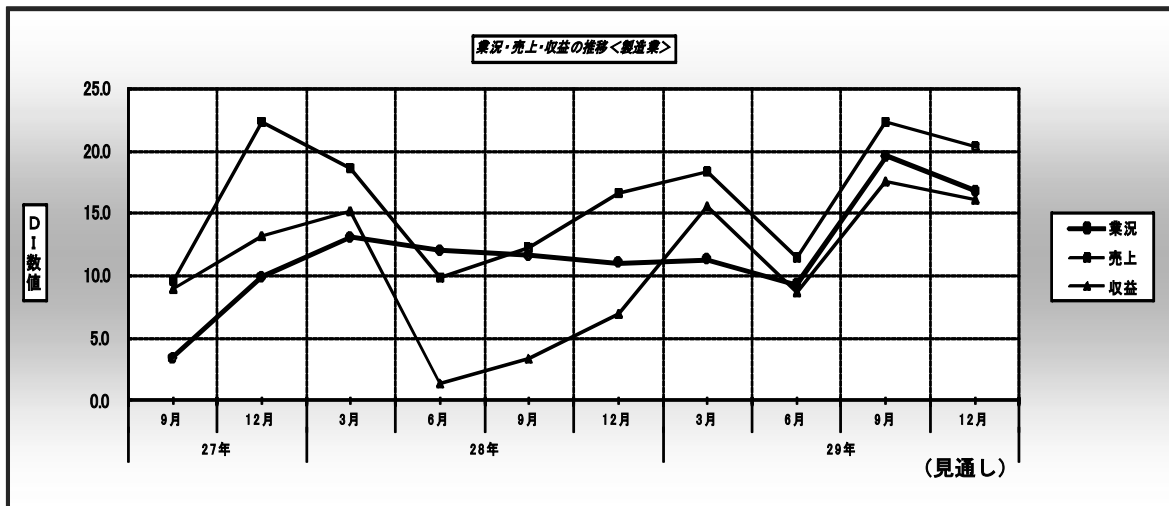
製造業

当期のD Iは、業況+19.6（前期比+10.3ポイント）、売上+22.4（同+11.0ポイント）、収益+17.5（同+8.9ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。一方、来期は、全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

製造業全体としては、企業の設備投資意欲が引続き高く、受注が増加している先もみられる。しかし、依然として人手不足や外注費の高騰を懸念している先もみられる。

自動車部品関連については、一部車種のフルモデルチェンジに伴い、売上は比較的良好に推移している先もみられる。また、電気自動車や自動運転技術への関心が高まっており、今後の動向を注視している。

菓子製造関連については、需要の多い季節を迎えるが、運送費の値上げによる経費の増加が課題となっている。



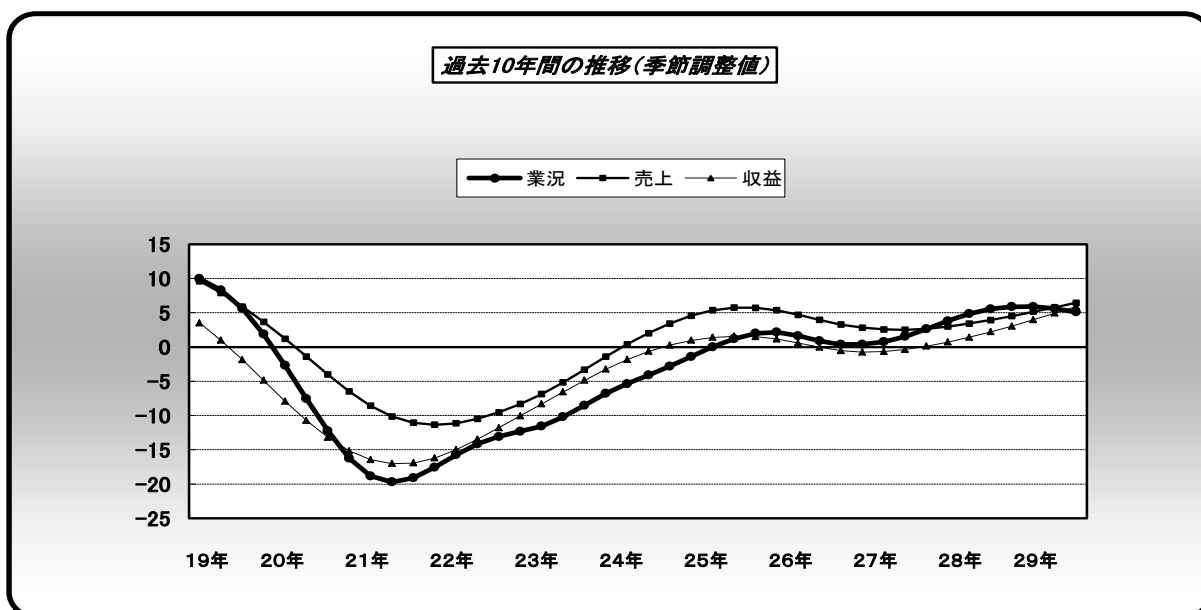
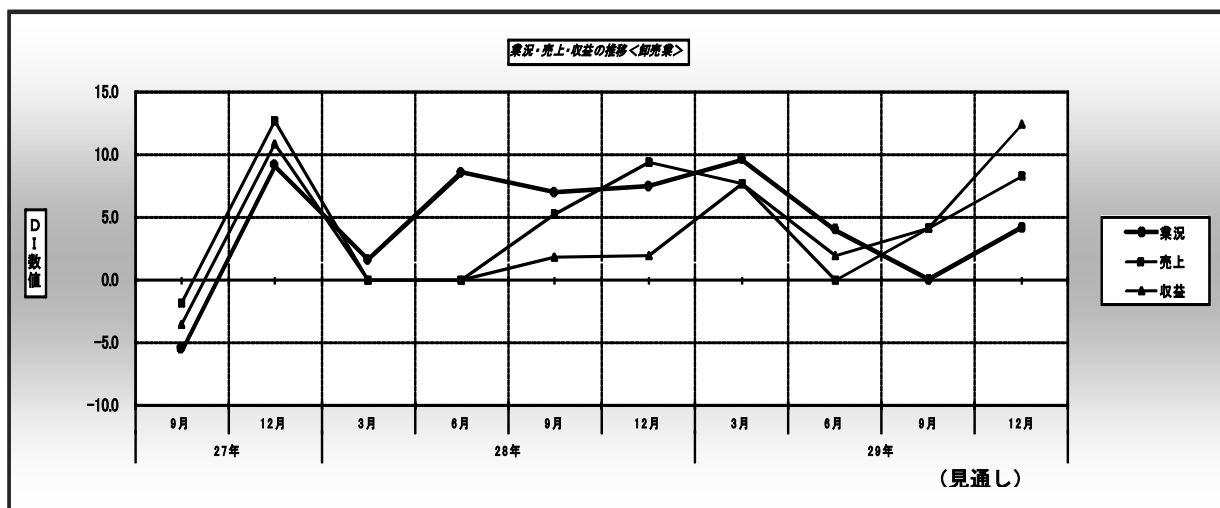
卸売業

当期のD Iは、業況±0.0（前期比▲4.0ポイント）、売上+4.2（同+4.2ポイント）、収益+4.2（同+2.2ポイント）と前期比では業況D Iが低下する一方、売上D I、収益D Iは改善している。来期は、全てのD Iで当期比改善が見込まれている。

卸売業全体としては、配送業者からの運賃値上げによる業況への影響および人材確保が課題となっている先もみられる。

青果卸については、夏キャベツは、長雨等の影響を受け、価格は平年より高値で推移している。冬キャベツについては、種蒔き、苗植えの時期を迎えており、天候不順の影響もなく順調に生育している。

木材卸については、住宅着工戸数が堅調に推移しているため、需要は増加している。米材、欧州材の価格は中国の買い付けが旺盛なこともあり、今後も高値で推移するとみられている。

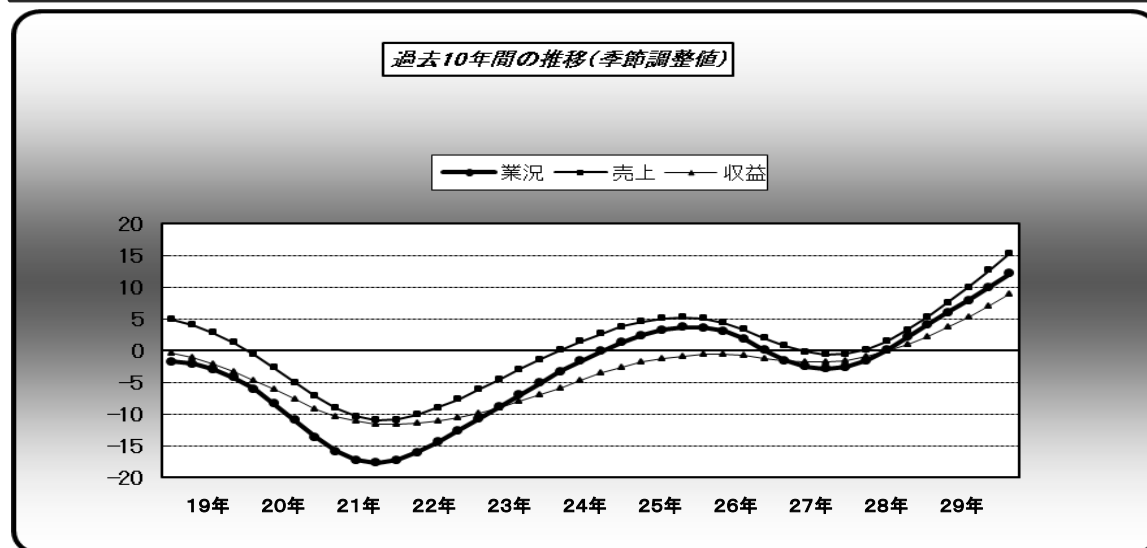
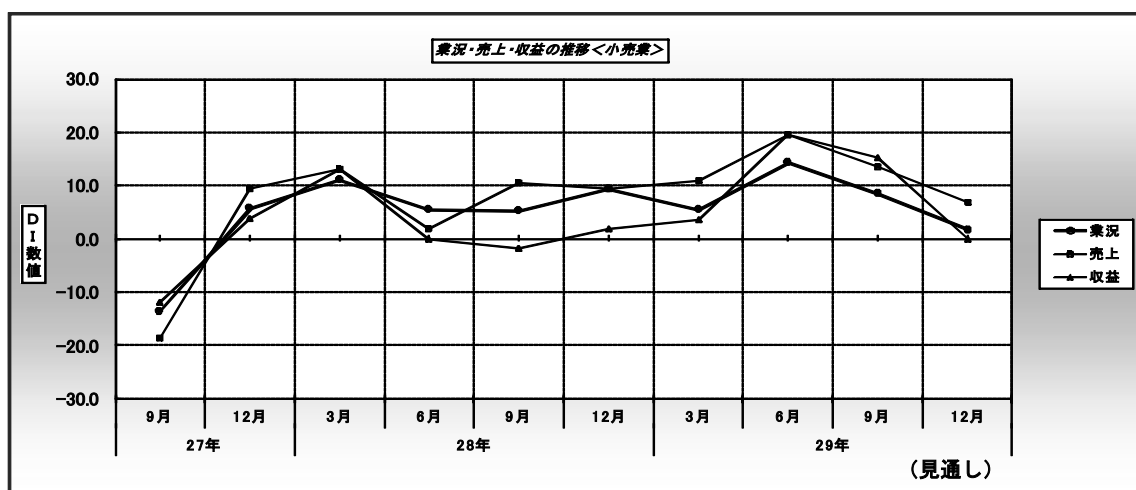


小売業

当期のD Iは、業況+8.5（前期比▲5.8ポイント）、売上+13.6（同▲6.0ポイント）、収益+15.3（同▲4.3ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。また、来期も全てのD Iが当期比低下することが見込まれている。

小売業全体としては、夏のボーナス時期ではあったものの、小規模業者の業況は、依然として大型店やネット通販等との価格差により売り上げは伸び悩んでいる先もみられる。

自動車販売については、全体的に販売台数は増加傾向にあり、特に軽自動車は昨年の燃費不正問題の反動から売上は伸びている。また、中古車市場においても軽自動車の需要が高まってきている。輸入車販売は、個性を求める消費者等から根強い人気があり、販売台数は伸びていく見込みである。

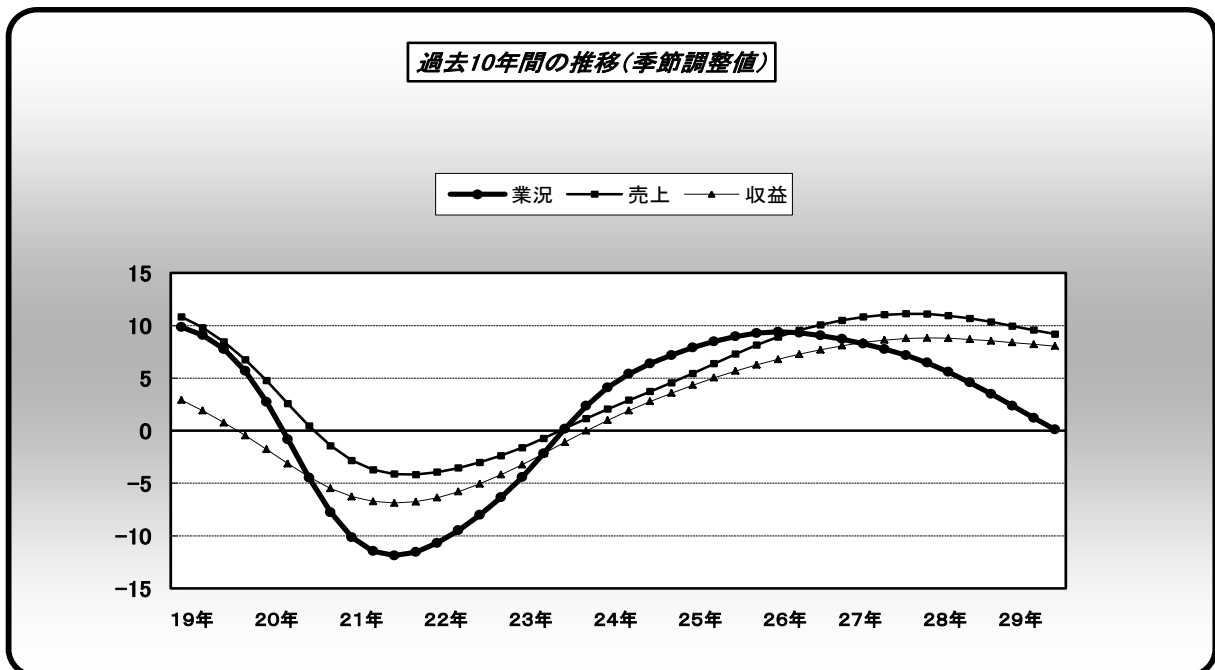
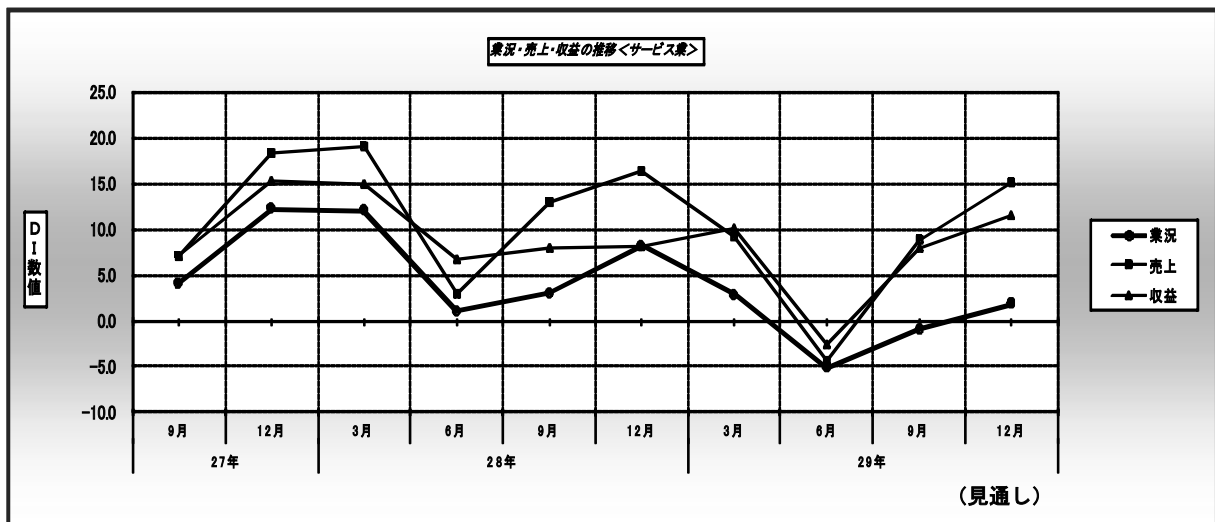


サービス業

当期のD Iは、業況▲0.9（前期比+4.2ポイント）、売上+8.9（同+13.2ポイント）、収益+8.0（同+10.6ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。また、来期についても、全てのD Iについて当期比改善が見込まれている。

ホテル・旅館業については、夏休みシーズンで、学生等の利用が増えたため、売上が増加している。また、引続き中国人等の団体旅行客の予約も入っている。一方で、人材不足は当面の課題となっている。

飲食業については、企業体力のある先が更に新規出店による業容拡大を図っている。競合は厳しいが、店舗形態のバリエーションを増やす等、他店との差別化により、売上増加を見込んでいる。



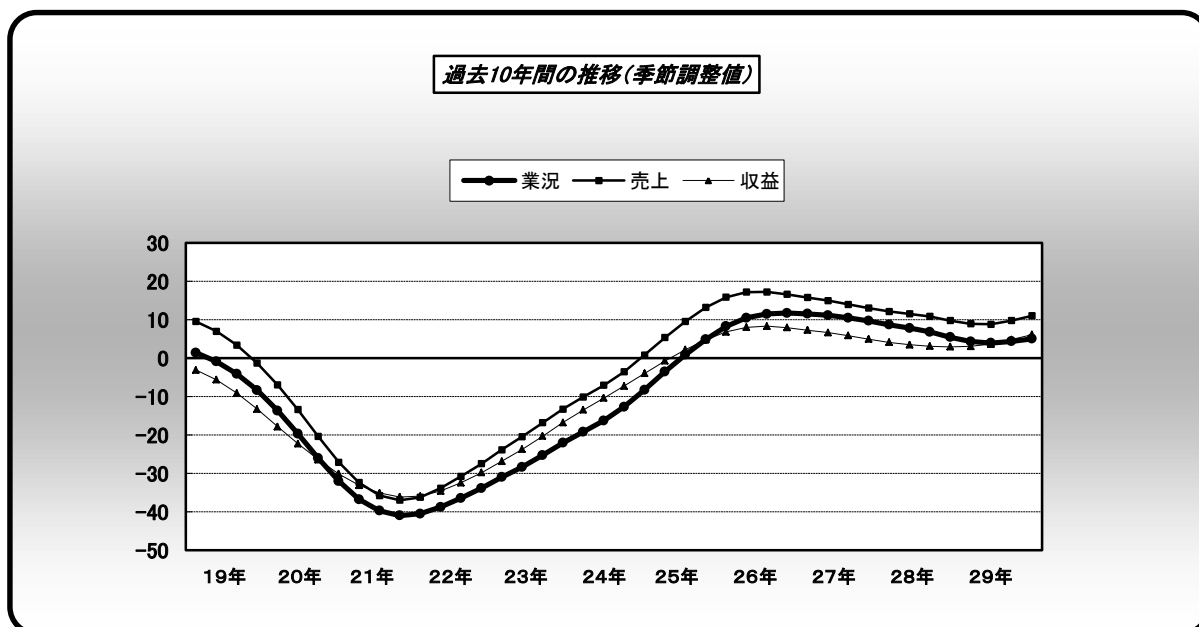
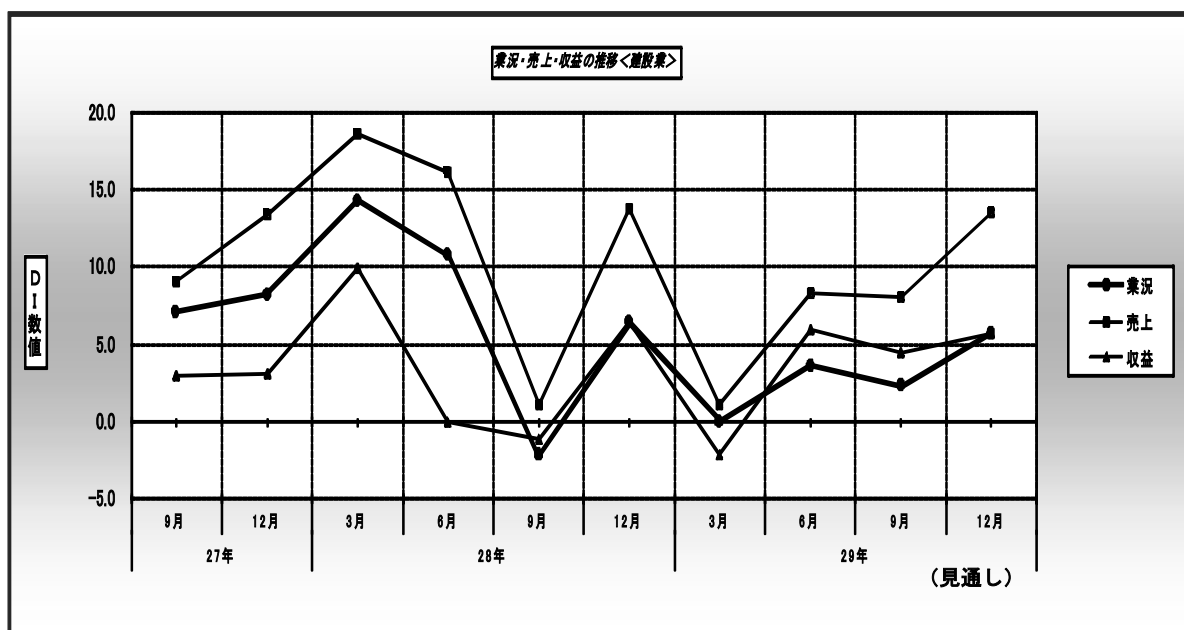
建設業

当期のD Iは、業況+2.3（前期比▲1.3ポイント）、売上+8.0（同▲0.3ポイント）、収益+4.5（同▲1.5ポイント）と全てのD Iが前期比低下している。一方、来期は全てのD Iで改善が見込まれている。

建設業全体としては、依然として人手不足が大きな課題となっており、受注の応諾を断念せざるを得ない先もみられる。各事業者は人材確保のため賃金改定や労働環境の改善に努めている。

公共工事については、新たな大規模工事はないものの、例年並みの受注で推移している。

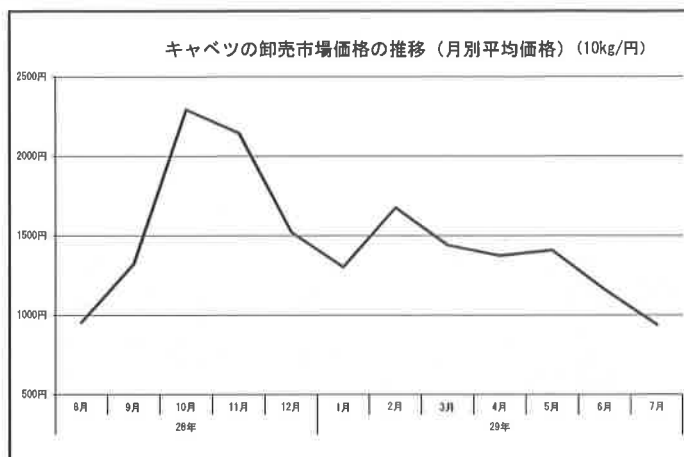
民間工事については、一般個人住宅は横ばいで推移する見通しである。



農業

野菜

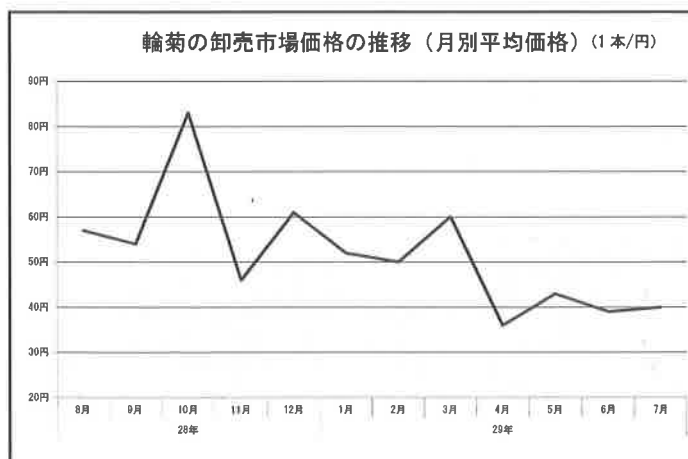
露地野菜のキャベツは、冬キャベツの作付が8月初旬から始まっており、10月中旬から11月初旬に出荷が開始される予定であり、販売価格は、今のところ天候不順等の影響もないことから、平年並みの推移が見込まれている。



※名古屋中央卸売市場の卸売価格を参考

菊

菊については、お盆やお彼岸の季節は需要が高まる時期であり、価格も高値で推移している。10月から11月にかけては、生産過剰となるため、価格は低下し、12月から年初にかけての需要期には相場は上昇するが、暖房等のコスト増加に伴い、業況は厳しくなる見通しである。



※（社）日本花き卸売市場協会の調査価格を参考

水産業

シラスうなぎの漁獲量は、増加傾向にあることから価格は低下しているが、夏場の成鰻取引価格は例年水準を維持している。今後は、黒潮海流の蛇行による影響から、シラスうなぎの漁獲量、価格は不透明な状況である。

運輸業

運輸業については、人材不足は依然として改善しておらず、女性ドライバー等を増加させているが、若い世代のドライバー不足が課題となっている。

不動産業

不動産業については、個人住宅用地や建売物件は、引き合いがなく値下げを検討している先もみられる。一方、企業等の事業用地は年末にかけても需要は高く、中心地以外でも売買が期待されている。